

層雲峡ビジターセンター



〔 白雲岳山頂から旭岳を望む・7月 〕

白雲岳（標高 2,230m）の山頂に立った者だけが目にすることができる特別な景色があります。旭岳の山肌に広がる、通称「ゼブラ模様の雪渓」です。この模様は、雪が完全に融けきる前の夏の一時期にしか見られないため、季節の風物詩のようなこの景色を見るために白雲岳へ登る登山者は少なくありません。

旭岳の急峻な斜面や、太陽の斜光による陰影が壮大なスケール感と奥行きを演出しています。この残雪と高山植物が織りなす天空のアートを見る絶妙な位置に白雲岳山頂はあるのです。

雪の溶け具合や植生の成長によって模様は日々変化していきます。雪が溶けた部分には高山植物が芽吹き、緑が広がります。残雪との色の対比が、ゼブラ模様をより鮮明に見せてくれます。



白雲岳避難小屋 FB より

白雲岳周辺は以前からヒグマが頻繁に出没するエリアです。今年も山頂直下にヒグマが出没し、登山者による「必要以上にヒグマを刺激する行為」がニュースでも報道されました。今回の場合、遠くにヒグマの姿を見かけた場合、ヒグマが立ち去るのを待つか、登山を中止するのが正しい判断です。引き続きヒグマは白雲岳周辺に出没する可能性があり、訪れる際は細心の注意とクマ対策が必要です。

▲大雪山の高層湿原：天空の静寂に広がるミズゴケの楽園

標高の高い山岳地帯に広がる「高層湿原」は、まるで天空に浮かぶ水の庭。地下水に頼らず、雨水と雪解け水を水源としているため、土壌は栄養分が乏しく、酸性度の高い独特な環境が広がっています。



松仙園三の沼（空撮）

この湿原の特徴は、何と言っても厚く堆積したミズゴケの泥炭層。鮮やかな緑が広がるこの植物は、分解されにくく、長年にわたって湿原の地形を形づくってきました。大雪山の高標高地では、気温が低いため微生物の活動が鈍く、ミズゴケの枯死体はゆっくりと積み重なってゆき、湿原そのものを形作ってゆきます。

過酷な条件の中で、ここに生きる植物たちは独自の進化を遂げ、美しくたくましい姿を見せてくれます。夏には可憐な花々が咲き乱れ、秋には湿原が金色に染まり、季節ごとに異なる表情を楽しめるのも魅力のひとつです。🌿もし機会があれば、沼ノ平や沼の原などの高層湿原を歩いてみてください。静寂に包まれた風景の中、足元のミズゴケに守られた大地が、あなたをそっと迎えてくれるはずです。



ツルコケモモ



タチギボウシ



ヒツジグサ



トキソウ



モウセンゴケ

お知らせ

環境省アクティブレンジャー写真展 ～北の自然の舞台裏～

国立公園や国指定鳥獣保護区で活動するアクティブレンジャーの皆さんが、業務中に撮影した自然景観や野生生物を紹介する写真展を行っています。

日時 8/1（金）～8/24（日） 場所 層雲峡ビジターセンター内レクチャー室

